

認知症にやさしい地域を考えよう!IN 紫塚

活動のわらい

- 地域に認知症の方が暮らしていることを知り、児童自身も地域で支えあう一員であると感じる。
- 認知症の方とともに地域で心地よく生活するために、自分たちにできることを考える。
- 認知症の方を支える地域づくりにつなげる。

開催日時 : 平成 28 年 10 月 25 日 (火)
午前 10 時 30 分～12 時 20 分

活動場所 : 小学校 体育館

参加者 : 小学校 5 年生 51 名 地区の方 8 名

主な内容

◇10月3日 認知症サポーター養成講座を受講

◇10月25日当日

● 認知症の方への接し方を学ぶ

- ・児童によるロールプレイ

「良い接し方」と「良くない接し方」を行い、接し方の違いでどんな気持ちになるか感じる。

● 認知症の家族の方のお話

● グループワーク ～家族が認知症になったとき～

1. おじいちゃんおばあちゃんが認知症になったら、大変なことはなんだろう？

「おじいちゃんおばあちゃん本人が大変なこと」「近所の方が大変なこと」など

2. どうしたらいいだろう

● まとめ

☆おじいちゃんおばあちゃんのいいところ、すごいところを見つけよう

☆やさしい気持ち、おだやかな気持ちで接することが大切

☆まわりの人の助け、サポートが大切

☆まわりの人が気にかけることが大切 「あれ?って思ったら大人に伝えよう」



参加した地域の方の声

子供たちは、次から次へと発展させながら真剣に考えていました。

学校との連携は難しいと思っていましたが、こういう取り組みを続けていくことで可能な気がしました。こうして連携することはお互いにプラスになると思います。

参加した児童の声

- ・まわりの人が優しく接することが大切だと思います。
- ・地域の中で、笑顔であいさつをしたいです。
- ・地域の人たちと協力して、認知症の人を支えたいです。
- ・認知症の人の家族だけでなく、近所の人も協力するのいいと思います。
- ・認知症の人を理解し、みんなで支えることができそうです。
- ・どんな人でも、やさしく接することがいいと思います。

先生のお話

ご家族の体験談に耳を傾ける児童の姿が印象的でした。

グループワークでは、地域の方に意見を受け止めてもらい、距離が近づいたように思います。

活動を通し、認知症についてなんとなく抱いていたイメージから“きちんと対応をすれば社会とともに生きていける”との考えに変わったようです。

災害が起こったら、あなたならどうする？
～ 災害と助け合い ～

活動のわらわ

災害発生時避難の際にどうすればよいか、地域を支える一員として地域の人と一緒に支えあうためにどうすれば良いのか、地域の課題などを考えるきっかけづくり

開催日時：平成28年10月17日(月) 午後2時25分～3時30分

活動場所：中学校 体育館

参加者 学校-53人(全学年46人、教員7人)・地区の方-5人(地区社協・区長会・見守り隊)

主な内容

1) 講義「災害と助け合い」

2) DIG(災害図上訓練) 「災害が起こったら あなたならどうする？」

1. 地域を知る

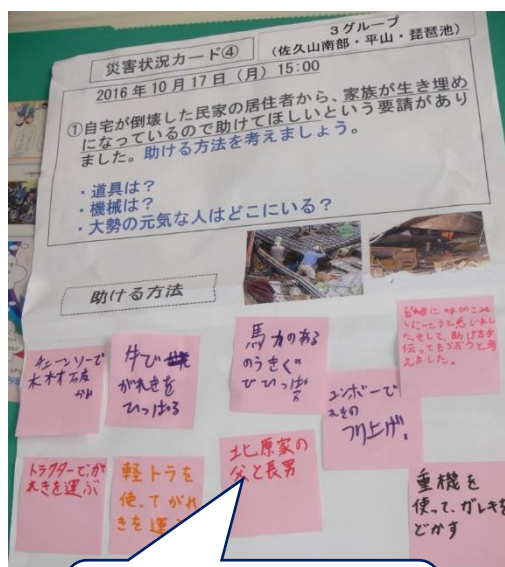
- ①災害時の地域の危険な場所を知る。
- ②避難に支援を必要とする方がどこに住んでいるかを知る。

2. 社会資源を知る

災害時に使える地域の社会資源(人、物、場所など)を知る



みんなで話し合いながら地図に書き込みました



どんな解決策があるか、話し合い意見を出し合った

地域の方の声

中学生のみんなで協力しあって、地域を盛りあげていきたい。災害が起きても、みんなで協力しあえる地域にしたい

過疎化が進んでいるが、みんなで助けあって、協力し合う地域にしたい。

地域の方の声

「子どもたちは地域のことを良く知っているんだなあ」「佐久山のことを愛しているんだなあ」という印象をもちました。」今回いっしょにやってみて良かったと思います。

子どもは地域の宝です。地域で子どもたちを育てていきたいです。